



辛巳講演集

特別  
又6  
8490  
1846  
早稲田大学図書館





76  
8490  
(1846)

76  
8490  
1846

辛巳講演集

參部 双葉 參號

昭和十六年十月中旬  
於宮崎



登壇の辞

昭和の青年に告ぐ

私は宇垣大将であります。私の如き単純なる軍人育ちの老人が多く、聴衆の前に立って、講演などをすることは、柄にふさはしくなく遠慮すべきであると考え、近年は各所からの講演の御依頼などはお断りして居ります。け水ども、青年の集りだけには、つとめて顔を出しお話することにして居る。それは私が



永い軍人生活の間、元氣横溢せる  
青年を相手にして御奉公致して來  
たため、心から青年が好きになり、青  
年に對して特別の親しみを持ち、それ  
のみならず、私自身、年をとりにくも  
常に青春の如き氣分を保持して常に  
青年と共にありたい、青年と共に働  
きたいと念心して居りますので、熱力  
青年の會合には喜んで進んで出席  
するのであります。

國民心身  
の健全化  
の必要

益故知新、古きをたずねて新しき  
を知る意味で少し過去のことをお話し  
しますが、かの大正の終り頃から昭和の  
初めにかけて、日本の思想界は歐米文  
化の積弊を受け、極めて不健全なる  
状態を呈し、そのため國民精神の弛  
緩並に國民の体格の低下等何れも  
憂ふべき有様で、これをそのまま打  
捨てて置けば、八紘一宇の聖業遂  
行の不可能は勿論のこと國家の前



途々へも海員に暗澹たる、自反ふべき  
情勢に於たのであります。當時  
私は陸軍大臣の大任を拜して居り  
ました。この悪風潮を是正して  
國家の進歩飛躍をはかる急には、  
何を指しても國民の精神と身体  
を練り直さなければならぬ、國民  
の魂を揺り醒ますべからぬなら  
ぬと考へたのであります。

そこで青年の鍊成といふことに着眼

したのであるが、國民心身の健全化  
を圖る爲に何故青年を主たる對象  
にしたかと言へば、青年には洋々た  
る將來が約束されて居り、國家の中  
堅として、推進力として、その運命  
を双肩に擔ふべき責務を有して居る  
からである。而かも純真無垢なる  
青年の頭に、確りと、日本人たるの  
不動の自覺を打ち込んて置くこと  
と併ひ行く体位を強健ならしめる



ことが、極めて緊要であると感じ致したので、時の文相岡田良平氏と懇議の結果、總学校教練と現在の青年学校の前身たる青年訓練を創始したのであります。當時これに對して大に反對があり、世間的にも頗る不評判でありました。が、これ等を押し切つて断行したのであるが、爾來今日に至るまで次第に發展充實して、所期の効果

青年協会の  
創設の  
趣旨

をあげて諸君御承知の如く、總学校教練は昨年、青年学校は本年、畏くも天皇陛下の御親覽を仰ぐの光榮に浴したのであります。眼のあたりはこの光榮の日の盛觀を拜し、過去を追懐して私の胸底には感慨實に無量なるものがありました。

この二大事業に実聯して、それらに有為有能なる指導者供給



するること、全國を通じて中堅と  
なるべき優秀なる青年を錬成し、  
これこそ村の基幹、中堅たらしむこ  
との必要を感じたので、学校教練、  
青年訓練の創始直後、即ち今よ  
り十三年前に日本青年協會なる  
ものを創設して、全國數ヶ所の道  
場に於いて中堅青年の陶冶訓練  
と青年指導者の再教育につとめ  
今日に及んだのである、而かも協

余の心境

會は遂次内容を整備して、着々  
その目的達成に直進し、私は創設  
以来この協會の會長として、及ばず  
乍ら御奉公致して居る次第であ  
ります。

斯様なる因縁もあり、私は青年  
が好きであり、親しみを有し、常  
に青年と共にありたいと念じ、この  
年になるまで青年の爲に東奔西走、  
飛び回って居るのであるが、然しこれは



青年の  
責務

畢なる趣味や道樂では断らてあり  
ませぬ。青年陶治の大國民運動の  
創始者として、健全なる國民を作り  
あげ、大事業を完成し國礎を永  
山の安きに置くことが、私の終生を  
通ずる義務であり、責任であり  
信念である。と考へて居るからであ  
ります。

青年は國家の中堅であり、國家  
の運命を双肩に擔ふものである。

而かも純真にして淡刺、正義に  
強きを以てその生命とするもので  
あると謂はれる。まさにその通りを  
ある。實に青年こそは、國運進展  
の原動力であり推進力である。従  
つて健全なる青年に育てる國家は  
興隆し發展する、反對に不健全  
なる青年を持つ國家は衰退し萎  
縮する。殷鑑遠からず、今度の  
大戰に於ける獨、佛、南、遠の跡に徴



しても明白である、獨逸の伴び、佛國の屈したのも決して偶然ではなひ。實に青年諸君の責務は重且大なりと言はねばならぬ。今や時局は文字通り重大であり至難である。この秋に際して全日本の青年一人残らず、真に日本の青年たるの大自然覺に決然と目醒め、その責務を果たさなければならぬのでありませす。

吾々修養の心掛は至誠在る

西郷南洲公羽は「凡そ事をなすには、須らく天に事ふるの心あるを要すべし、人に示すの念あるを要せず」と教へて居る。又「人を相手にせず、天を相手にせよ」とも言つて居られる。天に事ふるの心を持つて教へ、天を相手として己れを盡せといふことは、前記に記めると、至誠、まごころを以つて事に當れ、自己を捨てて全力を盡せといふことに歸する。更に「己を盡し



至誠とは  
何か也

て人を咎めず、我が誠の足らざるを  
尋ね心し口とも諭して居られる。

とは、至誠、まこととは何であるか。天  
の道に適ふ心、つまり天地神明に恥  
かぬ心なのである。吾々はこの心を持  
つて、すすむての事に當らぬ限り、絶  
對に人としての使命を完ふするこ  
とは出来ない。青年時代に於ける修  
養の一切も、要するに如何にして至  
誠の人たるかの行に外ならないので

あります！。

真にまこところ、まことを以て生志する  
ものの眼には、すすむてが生きて映るので  
ある。更に人は至誠の中にある時に  
のみ、未来を見透し得るのである。  
至誠の中にななければ、決して天の聲  
を聞くことは出来ない。学校にあつて  
知識を涵養するのも、鍛えとり鎌を  
揮つて土の生志に精出すのも、工場を  
ハンマーを握る者も、或は店頭下客に



批判と反省と責任ある生活の必要

接するものも、常に至誠の心を抱持して、  
修養・錬磨を怠らなければ、それが  
かゝる家はいふに及ばず、一村、一郷、  
一國の發展更生に寄與することになる  
のである、不斷にこの事を忘れれば  
ならない。

併し此間に於ても、吾々は飽造  
嚴正なる批判と反省を、自分自ら  
の言動に對して加へなければなら  
ぬ。そして常に責任ある生活せ

すべきである。この責任といふことは、  
常に自分自らに對しての責任だけで  
はなく、國家社會の一員としての責  
任をも指すのである。國家は決し  
て國民の無秩序な集合体ではあ  
りませぬ。脈々と躍動する生命体  
としての結合であることと、夢に  
も忘れてはならない。殊に萬邦無  
此の國体を有し、炳として輝く聲國  
の大精神を体する皇國民たる吾々



には、その支那に感教すると同  
時に、日本國民たるの自覺を心の  
底に確く銘じ、常に國家奉仕の  
至誠を致し、日夜、皇運を扶翼し  
奉むることを念とすべしとありませ  
即ち吾々は、いづかなる場合に  
も、この誤りなき一自らの使命責  
務を確認し、常住生臥、責任ある  
生志を實踐すべしとある。且つこれ  
と同時に、如何に忙しい生志の中

人たるこ  
とは日本  
人たるこ  
とである

あつても、常に批判し反省する心の  
用意が大切である。反省は出發の  
準備である。批判は反省の根元  
である。批判も反省も準備もな  
出發はまことに危険であるといふこと  
をも、忘れずはならないのである  
す。

人倫五常、即ち人間としして履踐すべ  
き道は、抽象的な人道とか、観念的な  
規範などではありませぬ。具體的な



歴史の上に展開せられた皇國の道  
である。人たることは日本人たること  
であり、日本人たることは、皇國の道  
に則り、人倫を履踐すること以外  
ならぬ。即ち吾々は國体に基く  
確固たる信念に生きなくてはなり  
ませぬ。この嚴然たる天則を、青  
年は心の奥底に牢記して、一刻  
たりとも忘却しては相すまぬので  
ある。繚り返す様であるが、皇

國の民たる自覺に徹し、國体に基  
く深き信念を抱持して、万事に對  
して熟慮断行、勇往邁進するの、  
實踐力を養ふことが、青年の重大  
なる責務である。為すべしことは  
敢然としてこれを為し、為すべから  
ざるは断じてこれを為さぬといふ真  
の實踐力を養成しなくてはならぬ。  
而かも眞行の源泉は信念であり、  
信念は絶対不二、最高の力である



批判  
得と

る所以を悟らなければならぬの  
にありませう。

ところで、この頃世間には意味の  
判らぬ大言壯語するものが多々様  
にあり。中には青年を煽って自  
分等の野心を遂げんとしてゐる  
者もなきに、しも非ずである。一寸  
聞けば、尤もらしい事であるが、  
よく検討すれば、飛んでもない誤  
魔化してあり、陥穽が潜んで

居る。演説にも書物にも粗悪な代  
用品やスノ入りがあるのがあります。  
従つて諸君は本を讀んでも、人の語  
を聞いても、それが本物であるか  
偽物かを判断することが肝要で  
ある。餅り甘すぎる説を聞く時  
には、眉に唾を付ける準備が必  
要である。歴史上に徴しても國家、  
社會が非常の様相にある時は、  
兎角異端邪説が横行し勝ちて



ある。無から有を生ぜしめる様な  
手品師的言説が飛び出すもので  
ある。諸君はこれに對して、その  
手品の種を見せろといふ批判の態  
度を執らねばならぬ。冷静にして  
透徹した鋭い判断の試金石にかけ  
れば、大抵のものは化の皮が剥が  
れる。

書物を讀むにしても、只徒らに  
澤山讀破するのが能くはなない。

<sup>2</sup>悉く書を信ずれば書なまに如か  
ずといふ語があるが、書に讀ま水  
ては濁れて了ふ。諸君はその書物  
の中から得べきものを、確固し  
身につけ、智識を真に自己の  
ものとして生かし、自分の生涯に融  
け込ますことを第一義として心掛  
けなければならぬ。それをこそ始  
めて真に學んだと言ひ得るわけを  
ある。斯様に考へてゆくと、學



校や講習に出て書物を讀み、先生の講義を聞くことだけが、學問でも稽古でもない所以が判つて来る。諸君の日常生活も亦學問に外ならない。田畑が、桑野が、工場が、商店が、それらが教室であり、道場なのである。そこには仕事として生きた教材が、日に日に提供せられてゐる。諸君はこれを握つて自らの血となし好とすべし

今次戦争の性格

であります！

支那事変は既に第五年目に入り、その間歐洲に於ても大動亂が勃發し、今や世界は有史以来の大転換期に際會して居ります。転換とはある一つの存在が滅んで、更に新しい一つの存在がこれに代りうとしてゐる姿である。従つて東亞に於ける事変は、この未曾有の世界転換の一環として處理されるべきなり



ませぬ。單に東亞の天地に局限せられた事変ではないのではありません。而かも今次動亂の性格を解明して見ると、それが單純な武力戦争ではないことが判然として来る。國家群と國家群との全面的な抗争であり、國民生活のあらゆる部面に於ける葛藤なのであります。支那事変もここに重大な核心がある。武力に於ける勝敗

は既に決してゐると言つても差支はないに拘らず、國民と國民とがあらゆる部面に於ける戦ひは、正にこれからである。而かもこの劇争を経過しない限り、民族の完全な一体化はあり得ないのではありません。又この意味を最早、戦線とか戦後の區別は明確につけられるべきではない。戦線も戦後も熱鐵一丸となつて、すべて第一線なりと言つて差支はないの



である。

事能はまことに容易ではありませぬ。國民の一人一人が銃をとる、とらぬの別はあつても悉く國家統力戰の戦士であり、騎士であることを自覺して、それそれ全能力を盡して御奉公すべしと秋であります。事変以来舉國の緊張と國民の努力に依つて、幾多の困難を克服し、長期戦遂行の現段階に即

應しつゝ今日に至つてゐるが、然し今日以後に於ては、歐洲戰の推移に關聯して尙幾多の困難と障礙の續て起ることを覺悟せねばなりません。言葉を換へて申せば、時艱克服の爲には、更に一段、否數段の自肅自戒、緊張努力、堅忍持久を要するの必要があります。就中、國家間の物資の交流、交換は極は極めて困難なる實情に在り、その上日本の真意を



理解せざる諸國にあつては、過般の  
 資産凍結、經濟封鎖等によつても  
 實證せられる通り、漸次真棉一  
 首を締める様に經濟的壓迫の  
 手を加へて來て居るそうあります。  
 吾々は非常な決意を以て、自主的  
 に努力するより外にこれが打開、凌  
 駕の方途はないのである。真に頼  
 むべきは頂天立地ただ自國の實力  
 のみであります！

時局を  
 打開する  
 道

然るに最近、物質日本即ち我國土  
 が狭いから資源に恵まれず、所謂持た  
 ざる國の仲間に屬すると自他共に考  
 へてゐる向が多様な様である。いかにも  
 現状のままでは、左様に言はれども  
 止むを得ないかも知れぬ。經濟封鎖  
 とか、資産凍結などを受けるに相當  
 に困ること免れぬか、と言つて拱手  
 思案してゐる時ではありますね。  
 この水を凌駕し打開する途を造る







精神日本の領域には、制限もなければ、限界もない。此頃盛んに産めよ、殖せよと言はれてゐるが、これも勿論結構であります。然しその半ではおいて水と急場の間に合ふ兼ねます。人口増加によつて國力を強めるには相當の年月を要しますが、國民の資質の向上によつて、國力を強めること、それも決して容易であるとは申しませぬが、

兎に角、力の入水方、やはり様によつては、人口量の増殖よりも比較的早道に出来上る筋合のものであります。故に日本としては殊に今日の急務として、國民資質の向上に大いに力を傾注すべきであると思つてます。

この國民資質の向上により、韓郭の大きな、線の大い、分の厚い、壯の掘つた、而かも腕の決えた國民が出来

吾人の創意工夫と努力精進は萬物の價値を



上る。斯くして、精神日本の領域が擴  
 大し、充實し、強化して來れば、無  
 き有とする譯には行かぬにして  
 も、現に此の世の中に存在する森林  
 羅力象、并物を吾々の創意工夫  
 と努力精進とによつて、人間の利  
 用厚生と今日よりも、より以上に  
 有効に供用し得べきを以て、物  
 質日本の領域の狭少なるを償つて  
 尚餘りあるべしと信ずる。否、これ

價值増進の事例

に依つて物質日本の領域も擴えん  
 せらるるのであります！  
 地下資源に就いて見ても、只地上  
 に現はれた露頭だけで結末をいつけ  
 てはならない。合資鑛だと言つて捨  
 ててしまつてはなりません。あらゆ  
 る努力と<sup>精進</sup>創意工夫に依つて、この水を  
 開發し利用することには留意すべし  
 であります。私は朝鮮總督<sup>在任</sup>當時  
 特に朝鮮の産金獎勵に力を致し



種々の施設をたてたのであります  
か、爾来今日に及んで、朝鮮の産  
金額は驚異的な数字を示して  
居ります。即ち昭和六年には年  
産七八噸十噸はなりしものが十一年には  
二十噸、十四年には三十一噸、を産出  
して居ります。人の工夫と努力は産  
額を八年間に四倍に増加して居る、  
而かも續々と珍らしい、從來日本に  
は無いと思ひ居りし鑛物が發見

と此つとあります。又わが國の捕  
鯨業に、しましても、支水の加工が外  
國依存であり、從來は獲った鯨の  
油を安く叩かれて外國に賣り渡す  
が虞の山下、他の骨や皮や、肝臓  
物等は殆んど利用せられずに打  
捨てられてあつたのである、然し近  
年我畜業者の研究と努力によつ  
て、現在では鯨油は言ふに及ばず、  
高級なる蠟に、又皮も、骨ぬも、



千代二子と、  
レインブルクの名

臆物も、即ち鯨の全身、何一つ  
として棄てるところなく、利用せ  
られて数倍に価値を高むるに至  
つて居るのであります。更に海國  
日本の周圍には廣大無辺の海洋が  
ある、この海洋から種々の物質を  
創り出し、且つこれを利用研究と  
水或るものは既に工業化せられ  
るものもありません。  
之れは我々の例であります。か斯く

觀に來れば精神日本の領域は無  
限大だと言ひ得る。ただ徒らに  
狭い領土、持たぬ國の悲哀に沈  
する愚とせめなければなりません。  
而かもこの領域を無限に擴るげ充  
實し、強化することは即ち國民資  
質の向上就中青年の陶冶訓練  
と科學の振興とその應用によつ  
て求め得られるのである。現在  
は高度國防國家の建設も、東亞共



榮園の完成もその基礎をここに  
置かねばならぬ、この基急より出  
発すべしとあると信じます。これは  
重要資源のことだけになく、日常  
の衣服、飲食物、住居等に亘つてす  
べて、上りよく適切に研究創造さ  
れ、以つて國民生活の健全、確平たる  
世代が現出されなければならぬ  
のであります。而かもこれを急  
す主力は青年を指して他にならぬ。

青年こそ最も純真にして旺盛  
なる研究者であり、新世代創  
造の人的資源である。故に諸君  
は日帝分擔する部門を通つて、  
皇國民たるの真面目を發揮し、  
新時代創造に力を盡とねばな  
りませぬ。然して断平として苦  
難を克服すべしとあります。  
苦難克服とは、苦しみをかきと  
せざる生活、そこに無限の希望



余の青年  
に對する  
要望

と喜びを待つ生忍を創造する  
ことを意味するのである。

私は常に正義の前に勇壯に、  
智勇を繰り、汗を繰り、そうし  
て頑張り通せ。といふ事を機会  
ある毎に青年諸君に要言として  
居りますか、この言葉を言ひ換  
へると、琢磨の者せよ、創意工夫せ  
よ、努力奮闘せよ、堅忍持久せよ  
といふ事に成ります。この言葉

信濃縣青  
年に對す

きよく喘みしめて、肝に銘じ光  
榮ある青年の責務を完遂し  
て下さい。それを切に望んばや  
ませぬ。

己が心の鏡なりけれ  
の歌を想ひ起し、不断の反省、不断  
の創意工夫、努力精進を繰り返し  
要望してやみませぬ。  
わが國土創成の神誌は、脈々と



る特殊の  
希望

して高千穂の峰に生えて居ります、  
宮崎神宮の淨域に顔く時、諸君  
の心魂は清々しく淨められ、  
輝かしい肇國の大精神が、胸奥  
に湧き上るに相違ないのではありません。  
神武天皇、日向をくだま、して  
十六年、東征の御偉業を御成  
就遊ばされ、大和橿原に、八紘一  
宇の御詔を下し給ひ、ここに  
都を奠め給ふた御事績を偲

ひ奉る時、御互は皇國日本に生を  
享けた喜ひを、心から感ぜざる  
を得ないのである。

このわが建國史に第一頁を、常に  
身を以て讀むことの出来る宮崎  
縣の青年諸君。諸君の常に肇  
國の大理想の中に生きてゐるこ  
とを忘れてはなりません。諸君は  
この歴史を無限に開展すべし  
重大なる責務を擔ふて居るので



あります。諸君は、しつかりと  
足を大地に踏みしめて、軽装  
妄動を戒めつつ、恣眼を  
この時局を遠観しつつ、  
協力一致、  
勇往邁進して下し。い。  
しつかり頼みますぞ。



辛巳講演集

昭和十六年十月二十九日  
於千葉市

參部 辰 榮 考 號



登壇の辞

國家の興隆と青年の使命

私は宇垣大将であります。私の如  
 き単純なる軍人育ちの而も時代  
 遷水の此の老人が、多くの聴集の  
 前に立つて、講演などを致すこと  
 は柄にふさはしくなく、遠慮す  
 べきであると考え、近年は各所  
 からの講演の御依頼などは殆ど  
 お断りして居ります。然し去月  
 年の集りと、科学に關する問題



に就いては、つとめて顔を出して  
教を仰ぎ、時には求めに應じて  
お話をすすめることにして居る。それ  
は私が永い軍人生活の間、元氣  
横溢せる青年を相手にして  
御奉公して来たため、心から青  
年が好きになり、青年に對して  
特別の親しきを持ち、否、水のみ  
ならず私自身、年をとりにながらも  
常に青春の如き氣分を以て、常

に青年と共にありたい、青年と共に  
歩みたい、青年と共に働きたいと念  
じて居りますので、勢ひ青年の會  
合には喜んで、進んで出席するの  
であります。

まづ温故知新、古きをたずねて新  
しきを知る意味を少し過去の  
ことを話します。かの大正の終  
りから昭和の初めにかけて、御承  
知の如く日本の思想界は歐米文化



の積弊を受け、極めて不健全なる状態を呈し、其の爲國民精神の弛緩並に國民体位の低下等の事實が現はれ、何れも直愛ふべき有様であつたのであります。これを其儘打ち捨てて置けば、八紘一宇の聖業遂行の不能は勿論のこと、國家の前途さへも實に暗澹たる情勢にあつたのであります。御集りの中年

以上の御方は夙に御承知のことと存じます。當時私は陸軍大臣の大任を拝して居りましたが、この悪風潮を是正して國家の興隆進展をばかる爲には、先づ何を措いても國民の精神と身体とを練り直さなければならぬ。國民の魂を揺り醒さなければならぬ。物心兩方面に涉りて國民の資質を一段否數段と向上せねばならぬ



ぬと考へたのであります。

そこで青年の練成といふ事に着  
眼したのであるが、國民心身の健  
全化、國民資質の向上を圖る為  
に、何故青年を主たる對象とし  
たかと言へば、青年には洋々た  
る前途が約束されて居り、今は  
明日の人であるけれども、直ぐ今  
日の人となるからである。國家の  
中堅として、推進力として、國

家の運命をその双肩に擔ふて居  
るからである。純真無垢なる青  
年の顔に、しつかりと、日本人たるの  
不動の自覺と、不拔の力量を打  
ち込んて置んことと、伸びゆく体位  
を剛健ならしめることが、極めて緊  
要であり必須である。痛感した  
ので、時の文部大臣故園田良平先生  
と相談の結果、總学校教練と青年  
學校の前身たる青年訓練を創



始したのであります。當時これらに對しては官民間に想像以上の反對があり、世間的にも頗る不評判でありましたが、これらを押し切つて断行したのである。それから今日に至る迄兩者共に次第に發展充實して、所期の効果も收め諸君御承知の如く、畏くも天皇陛下の御親覽を仰ぐの光榮に浴したのであります。

青年協  
會創設  
の趣旨

眼のあたりはこの光榮の日の盛観を拝し、過去を追懐して私の胸底には無量の感慨が湧き起つたのであります。この大事業に關連して、それらに有為有能なる指導者も供給することと、全國を遍して中堅となるべき優れたる青年を鍊成し、これを町村の中軸たらしむることの必要を切實に感したので、學子



校教練、青年訓練の創始直後、即ち今より十三年前に日本青年協會なるものを創立して、全國數ヶ所の道場に於て中堅青年の陶冶訓練と青年指導者の再教育に努め今日に及んだのである。而かも青年協會は遂次々容を整備して、着々その目的達成に邁進し、私は創設以來會長として、及ばず乍ら微力を盡して居る次第であります。

余の心境

ます！。

かかる因縁もあつて、私は不斷に青年と共にありたい、働き度いと念じ、この年になるまで青年のため、東奔西走、飛び廻つて居るのであるが、然しこれは單なる趣味や道樂ではありませぬ。青年陶冶の一、大國民運動の創始者として、健全なる國民を作り上げる大事業を完成し、國家の礎を泰山の安



さに置くことが、私の畢生の念願  
であり、又義務であり、責任であ  
ると確信して居るからであり  
ます。

青年は國家の中堅であり、國家  
の運命を双肩に擔ふものである。  
而かも純真にして潑刺、正義に  
強きを以てその生命とするもの  
であると言はれる。まさにその  
通りである。實に青年こそは

國家進展の原動力であり、推進力  
である。従つて剛健實實なる青  
年に満てる國家は興隆し、發展  
する。反對に不健全なる青年を  
持つ國家は衰退し萎縮する。  
殷鑑遠からず、今次の大戦に於  
ける獨、佛角遂の跡に徴しても  
極めて明白である。獨逸の伴び、  
フランスの屈したのも決して偶然で  
はない。斯く觀ずれば青年の責



務は重かつ大なりと言はねばならぬ。今や時局は文字通り重大であり至難である。この秋に際して全日本の青年一人残らず、真に日本の青年たるの大自覺に目ざめ、その責務を果たさなければならぬのであります。今時に青年指導者の任務も亦容易ならざるものであると言はねばなりません。

人間萬事の  
根本は誠  
至

西郷南洲翁は「人を相手にせず、天を相手にせよ」と言つて居られる。この事を「契」に記し、至誠即ちまごころを以て事に當れ、至誠自我をすてて全力を盡せといふことに歸する。下は、至誠、まこととは何であるか。至誠天に通ずるといふ言葉があるが、天の道に適ふ心、つまり天地神明に恥がぬ心を言ふのである。吾人は



この心をもつて、總ての事に當らぬ  
限り、絶対に人としての使命、本  
分を果たすことは出来な。青年  
時代の修養の根本も、要するに如  
何にして至誠の人たるかの行にあ  
ると信じます。

真にまごころ、まごころを以て生活  
する者の眼には、あらゆる事相が  
生きて映るのである。人は至誠の  
中に居る時にのみ、現在を正視し、

未来を見造し得るのである。至  
誠の中に居なければ、決して天の  
聲を聞くことは出来ない。私は  
至誠に生くる時こそ人生の絶対  
境である。断言して憚らな。い、  
斯の如き境地に立ちてこそ、人は  
始めて聲なきに聞き、形なきを  
見得るのである。

學校にあつて智識を涵養する  
者も、鋏をとり鎌を揮つて土の



生老に精出す者も、工場をハンク  
 ーを握る者も、或は商店を窓に  
 接する者も、常にまごころを抱  
 持して、修養、鍊磨を怠らな  
 ければ、それが自己、一家は言ふに  
 及ばず、一村、一郷、一國の發展  
 興隆に寄與することになるのを  
 知る。青年は常にこの事を心  
 掛けてはならない。又指導に當る  
 人も常に坐臥、この心を心に

批判と  
 反省と  
 責任と  
 生老

刻み込んて置かなければならぬと  
 信じます！  
 然し學園や職場に在りて是  
 々仕事に於ては、吾  
 々は飽く迄厳正なる批判と反  
 省を、自らの言動に對して加へな  
 ければならぬ。そして常に責任  
 ある生老を為すべからぬ。こ  
 の責任といふことは常に自分自  
 らに對する責任だけではない、



國家社會の一員としての責任をも指すのである。

國家は決して國民の無秩序な集合体にはありません。躍動する生命体としての結合であることを忘れるはならない。殊に萬邦無比の國体を拝し、瓶として輝く筆國の大精神を体する皇國民たる吾々は、その光榮に感奮すると同時に日本國民たるの自覺を

心の底に銘じ、常に國家奉仕の至誠を致し、日夜、皇運を扶翼し奉ることを念とすべしであります。即ち吾々は、いづかなる場合にても、この使命責務を確認し、責任ある生志を實踐すべきである。且それと同時に、如何に忙しい生志の中にあつても、常に批判し反省する心の用意が大切である。反省は出發の準備



今道の

であり、批判は反省の根元である。批判も反省もなほ出發、生志は危険千万であるといふことを、忘れてはならぬのであります！。

人倫五常、即ち人間として履踐すべき道は、單なるお題目めいたものや、觀念的な規範などではありませぬ。具體的な歴史の上に展開せられた皇國の道であります！。人たることは日本人たることであり、

日本人たることは、皇國の道に則り人倫五常を正しく身につけることに外ならぬ。即ち國体に溯源する確固たる信念に生々たるはたなりませぬ。繰り返す様であるが、皇國の民たるの自覺に徹し、國體に基く深き信念を抱持して、すべての事に當つて熟慮断行、勇往邁進するの實質力を養ふことが、日本青年の責務である。



為すべきことは敢然としてこれを  
 為し、為すべからざるは断じて  
 これを為さぬといふ真の實踐  
 力を養はねばならぬ。而かも  
 實踐の源泉は信心にあり、  
 信念は絶対不二、最高の力をあ  
 る所以を悟らなければならぬの  
 であります。私が常に口癖の  
 如く青年に要望して居る日録の  
 大い、分の厚い、壯の擡つた人間

今次戦  
 争の性  
 格

は、罕平たる信心に發してこそ、  
 始めて鍊成し得らるるのであります。  
 支那事変は既に第五年目に入り、  
 その間歐洲に於ても大動亂が激發し、  
 今や全世界は有史以來の大転換期に  
 際會して居ります。従つて東亞に  
 於ける事変も、この未曾有の世界転  
 換と關聯を持つ様になりつつある  
 のであります。先般新内閣の成立



直後、政府は支那事変を完遂し、大東亞共榮圈を確立して世界平和に寄與するは帝國不動の國是なり。と聲明して、その針路を明かにして居ります。今次の動乱は單純なる武力抗争ではなく、國家群と國家群との全面的な抗争であり、國民生活のあらゆる部面に於ける蕩蕩、イザナザナなのであります。支那事変もここに重心が

存する。武力の勝敗は既に決してゐると言つても差支へないに拘らず、國民と國民、民族と民族とがあらゆる部面に於ての戦ひは、まさにこれからである。この意味で、最早戦線とか銃後の區別は明確に付けらるべきではありません。戦線も銃後も熱鐵一丸となつて、すべて第一線なりと言つて差支へないのである。



事能はまきりく容易ではありませぬ。國民の一人一人が、悉く國家總力戦の戦士であり、闘士であることを自覚して、全能力を盡して御奉公すべき秋であります。事変以来舉國的緊張と國民の努力によつて、幾多の困難を克服し、長期戦遂行の現段階に即應じつゝ今日に至つてゐるが、然し今日以後に於ては、歐洲戦の推移

に關連して高幾多の困難と障害が相次いで起ることを覚悟し、預期せねばなりません。

言葉を換へて申せば、時艱克服の爲には、更に一役、否数段の自肅自戒、緊張努力、緊忍持久を要するのであります。就中、國家間の物資の交流、交換は極めて困難なる實情に在り、その上日本の真意を理解せざる諸國にあ



つては、過般の資産凍結、經濟封鎖等によつても知らるる通り、漸次、真綿で首を締めゆる様に經濟的壓迫の糸を加へて来て居るのであります。吾々は非常な決意と努力を以て他國の模倣や他力依存を超越し以て自主的に時局を始末するより外に、これが打開、凌駕の方途はなないのである。眞に頼むべきは頂天立地ただ自

國軍の  
興隆の  
時局打  
用の根  
本策

己の力、自國の實力のみであります。然るに最近、物質日本即ち我國土が狭いので、資源に恵まれず、所謂持たざる國の仲間に入ると考へてゐる向が多、様である。いかにも、現在のままでは、左様に見られても止むを得ないかも知れぬ。由來他國の模倣や依存の傾きありし我國柄として一朝經濟封鎖とか、資産凍結などを受けると相當



に困ることも免れぬが、今更に言  
を言ふても及ぶもつかぬ、と言つて  
勿論手を拱いて思案投首、して  
ある時代にはありませぬ。御互は  
萬難を排し全力を傾注して之れを  
凌駕し、打開する途を進まなくて  
はなりません。その途としては精  
神日本の領域を擴ろげ、充實  
して行くより他に捷徑はないと  
考へます！。

我國に不足する物資は、これを  
滿洲や、支那や、南洋方面から得て  
補へばよ、と言ふのも一案ではある  
が、然しこれは矢張り他力依存たる  
を免かれぬ、左様なケチな考へ  
では、到底現在の難局を完全に打  
開すること困難である。不足  
物資を他國から仰いで、それを滿  
足しやうとするが如き、非建設的理  
念では、近き将来に於ける日本の飛



躍進大成は到底望めない。現に  
日英新関係の出来上りて最早十年を  
経過して居りますけれども依然と  
して日本から注ぎ込めずありませぬ、  
差引勘定すれば日本は年々多額  
の資材を滿洲に持出して、マイナス  
になりて居ります。之れがプラス  
に成るには高相當の年月を要しま  
す。滿洲に於て既に然りである。  
況んや支那や南洋などは有望な

る將來性を大に持て居りますけれ  
ど當分は大なる引當てには成り兼  
ねる。故に吾々は不足する物カ員が  
あれば、工夫と努力に依りてそれの増  
産を圖るべきである。増産が絶  
對に不可能であるならば、新しい  
ものも發見、創造すること、心を  
砕き力を注ぐべきである。私の  
言ふ精神日本の領域とは、かかる  
方面を指すのであります。科學



と技術の總動員と言ふ聲を耳にするが、これが究極の目標も、精神日本の領域擴充にあると考へます。

而して精神日本の領域には、制限もなければ、限度もない。此項、産めよ、殖せよ、と言つて人口の増加により、國力を強める方策が樹てられ居るが、これも勿論結構であります。然しこれには

相當の年月を必要とします。から此の人口増加の方法と相俟つて、他方に於いては國民の素質を向上せしめることか必要であります。國民の資質の向上によりて國力を強めることも決して容易なりとは申しませぬが、力の入水方、やり様によつては、人口増加よりも國民素質の改善、向上の方が、比較的早道に出来上る筋合のものであると考へます。故に



創意工夫  
努力精進

日本としては殊に今日の急務として、国民素質の向上に大なる力を傾注すべしである。と信ずる。この国民素質の改善、向上に依り、輪廓の大さ、線の太さ、分の厚さ、肚の出来た、而かも腕の太さ、た國民が出来る。頼母敦真の日本人が出来る。かくして精神日本の領域が拡大し、充實し、強化して来れば、無き有とする譯には行かぬにしても、

價値増  
進の  
實例

現にこの世の中に存在する森林、四維万象、萬物を吾々の創意と工夫、努力と精進とによつて、人間の利用厚生上、今日よりも、より以上に有効に使用し得べきを以て、物質日本の領域の狭少なるを償つて高録りあるべしと信ずる。否、此水によつて物質日本の領域も擴充せらるるのであります。

地下水資源について見ても、ただ地上に現はれぬ露頭だけで結末をいけ



てはならぬ。貧乏なると言つて、無暗に捨て去るべきではない。あらゆる努力を精進と創意工夫をめぐらし、この水を開發し利用することにして、これを留めずべきであります。私は朝鮮總督在任當時、各種の産業政策を實現しました。特に朝鮮の産金奨励に力を致し、種々の施設を樹てたのであります。爾來今日に及んで、朝鮮の産金額は

驚異的な數字を示して居る。即ち昭和六年迄は年産七、八トン十トン足らずであつたものが、十一年には二十トン、十四年には三十一トンを産出して居ります。人の工夫と努力が實現を結んで、その産額を八年間には四倍となして居る。而かも高嶺々と、珍らしい從來日本にはないと言はれてゐた鑛物が發見さされつつあります。



又我國の捕鯨業、鯨とり、にし  
ましても、近年までその水の加工は  
外國に依存し、獲った鯨の油の  
如きは巧妙な市場操作により、  
極めて安く叩かれて、外國に賣り  
渡すのが虞の少く、他の部分即  
ち骨や皮や、肉や臓物等殆んど  
利用せられずに打ち捨てられて  
来たのである。然し近年我國の  
畜業者の研究と努力によつて、

現在では、鯨油はいふに及ばず、  
高級なる蠟に作られ、また皮も、  
骨も肉も、臓物も、即ち鯨の全  
身、何一つとして棄てることなく、  
利用せられて従来に比し数倍の  
収益をあげる様になつて居る。  
更に海國たる日本の周圍には廣  
大無辺の海洋がある。この海洋か  
ら種々の新しい物質を創り出  
すことも極めて廣大無辺なる特



無限大  
の精神  
日本

来性があると思ひます。現に或るものは御承知の通り既に工業化されつつあります。

其他私の最近實見、しましたチタニウム、採鑛やメンベルグ織布の如きも吾人の努力と工夫の一の結晶として物質日本の前途に光明を認めただのであります。

これ等は單に一二の例に過ぎないのであるが、かく見て来れば精神

神日本の領域は無限大だと言ひ得る。ただ徒らに狭い領土、持たぬ國の悲哀をかこつ、愚心をやめなければなりません。而かも、この領域を無限に擴ち、充實し、強化すること、即ち國民素質の改善、向上、就中、青年の陶冶訓練と科学の振興と其の應用によつて求め得られるのである。現在では高度國防國家の建設も、大東亜共榮圈の完成も、



その基礎をここに置かねばならぬ。この基礎から出發すべしである。信じます。これは重要資源の井のことはなく、日常生活の衣食住の各方面に亘つて、すべて、よりよく適切に創意工夫され、以つて國民生活の健全、確平たる時代が招来されなければならぬのであります。而かもこれを爲す主力は青年を措いて他にならぬ。青年こそは

青年に  
對する  
要望

純真にして、旺盛なる研究家であり、新しい時代をいくる人的資源である。従つて青年指導者に當る者は、常にこの青年の特質を生かすことに心を致すべしである。教育とは智識を詰め込むことではなぬ。人間の内部に潜む特質をひき出すことに外ならぬ。

私は常に正義の前に勇敢に、智恵を絞り、汗を絞り、そうして頑



千葉不景  
青年に  
對して

張り通せよ といふことを青年諸君  
に要望して居るが、これを言ひ換  
へると、琢磨の省せよ、  
創意工夫  
せよ、努力奮闘せよ、  
堅忍持久せよ  
といふことになりす。この言を  
特によく噛みしめて、  
所に銘じ、  
而して実行して下さい。  
それを切  
に望んでやませぬ。

千葉縣は地圖を披いて見れば判  
る通り、東京湾を扼する樞要

の部位を占め、帝都の咽喉部を  
形成して居ります。これは軍事的に  
見ても極めて重要であり、  
國土計画  
の上から見ても等閑に附することの  
出来ない立場を占めて居ります。  
更に地味豊かに農業、  
園藝に適し  
海岸線は長く有数の漁場を有して  
居ります。この意味で帝都のお  
台所を受持つて居るとも言へるので  
ある。これ等のことを静かに考へて、



時局下にあつて縣民諸君、特に去年諸君が一人残らずそれの職域、職分に十二分の御奉公を致さねばなりません。

立正安國を高唱した日蓮上人を生んだ千葉縣は、上人の聖蹟を到るところに有し、幾度の法難にも屈せず、ひたむきにその信念に忠實であつた上人の大精神は、隨所に生きて居る筈であり

結語

ます。世が龍衣來に際して日蓮上人が執つた毅然たる態度、不屈の信念を相正起し、吾々はこの時艱克服に際して、飽く迄壹々と穿平たる決意を以て直進しなければなりません。

而して無限に開展して行く日本<sup>の</sup>道を拓かねばならぬのであります。

諸君は、しつかりと足を大地に



踏みしめて、軽装の女勳を戒  
めつつ、右眼をむらいて時局を  
遠観し、強く正しく前進して  
下さい。しつかりとお頼みして  
置きます！。

二十六年

参部反案考號

辛巳講演笑集

昭和十六年十月十五日  
於兵庫道場



青年の心構へ、身構へ

私が日本青年協會々長宇垣大將で  
あります。私の如き單紙なる軍  
人育ちの而かも時代違れの老人が、  
諸君の前で講演するなどは、柄に  
ふさはしくないのであります。私  
は永い軍人生活の間にあつて常に青  
年と相争にして来ましたが、習  
性となると言ふか、兎に角青年が  
好きになり、青年に對して特別の親



しみを持ち、否、その水のみなならず私  
自ら、年をとつて居りながらも常に  
青春の如き氣持を以て、常に青年  
と共にありたい、青年と共に歩みたい  
不断に青年と共に働き度いと念  
じて居りますので、今日、喜んでこ  
の席に出て来たのであります。

諸君は、何れも神戸を中心とした  
謂はば我が國の心臓部にあつて、  
それゆゑ産業方面の戦士とし、  
闘

將として職域奉公の誠を竭して居り、他  
の人々が休息する時間を、この道場にあつ  
て、ひたすら行的鍛錬を勵んで居るの  
であります。昔から、可愛い子には  
旅をさせろとか、若い時の辛抱は買つ  
てもさせよと言はれて居りますが、諸  
君が今日、嚴正なる團體生活の規律  
に服し、肉体的、精神的修練を積ん  
で置くことは、將來の人生行路に於いて、  
必ず役立つに相違ない、前途の光明



を此間に得らるることと確く信じて居ります。

然しただ徒らに肉体、精神を酷使するだけでは、駄目であります。團體生活に於ける自らの立場を常に把握すると共に、朝夕の行事を通じて自らを反省し、批判しなげればなりません。斯くしてこそ、この講習會諸君の身につき、樂しい想出となつて顧みられるのであります。時

局は頗る重大であります。此水が打開には諸君の如き産業陣營にある青年の、確乎不拔の意思と不退転の實行力の結合を最も必要として居ります。ここに於いて諸君は、社會人としての重大なる責務を、その双肩に擔つてゐるのである。この自覺を以つて、自らの立場を反省して、日々の業務に、邁進しなげればなりません。



諸君御承知の如く、支那事変は既に第五年を迎へ、長期戦の態様を呈して居ります。然かもその間、歐洲戦争が勃發し、嘗日つては不侵略の條約を結んだ獨逸、ソヴエト聯邦の間、熾烈な攻防戦が展開され、全世界をあげて有史以来の大転換が行はれんとしてゐるのであります。

今~~後~~次の戦乱は國家總力戦と

言はれる通り、單純な武力の抗争ではなく、政治、經濟、文化とあらゆる部門に亘る抗争である。而かも、國家群と國家群との全面的な衝突なのであります。支那事変の重心もこの念に存する。武力に依る勝敗は既に決して居ると稱して差支へないのであるが、日支兩民族のあらゆる部門に亘る戦ひは、まさにこれからであるとして觀るべきであ



ります。興亡四千年、徳々たる揚子江の流れに掉さして焦らず、慌てず、宛かも太古の民の如き支那民族を相手にして、吾々は決して焦ってはなりません。短氣を起してはならないのであります。銃後も戦線も灼熱した鉄の如く丸となった、鋭くまでこの聖戦を戦ひ抜かねばならぬのである。現在の事能心ばまさしく容易で

はありませぬ。吾々は國家の浮沈興廢の関頭に立ってゐるのである。依つて國民一人残らず、國家總力戦の戦士であることを自覺し、全能力をあげてむたすに御奉公すべし、秋たなのであります。事變以来、多くの犠牲を拂ひ、幾多の困難と障碍を克服して来たのであるが、今日以後にあつては、歐洲戦の推移に虞連して、一層困難なる事



能心が相次いで起ることを覺悟し、  
豫期せねばなりません。太平洋  
の波は立ち騒ぎ、所謂ABC口の  
包圍能心勢力は益々固められ、  
る様であります。

かかる現状に於いて、國家間の  
物資の交流、交換は極めて円滑  
を欲し、毎頁情にあり、日本の真  
意を解せざる諸國にあつては通  
商條約の廢棄、次いで、  
10  
次頁産凍

結の與年に出づるなど、所謂經濟的  
壓迫の手を加へ、これに依つて日本の  
經濟をナリ、負狀能心に陥れ、戰時  
經濟の自壞を待つと言ふやうな手  
段に出てゐるのであります。

明治初年以來、今日までの日本の  
科學界、經濟界は他力依存  
や模倣で、歐米主義の鷄呑みと  
へふ傾向があつたので、一朝技術や  
經濟の封鎖の手段を受けると、



相當の打撃平を蒙ることも亦やむを得ないのであるが、然しただ困った、困ったと泣き言を並べてゐるのが能くはありませぬ。吾々は非常な決意と努力とを以つて、茲に窮通打撃の路をひらくべきであります。速かに他國の模倣や他力依存を一掃して、自主的に打撃、凌駕の方途を講ずべきである。屢々繰り返さねば成らぬ事であるが、眞に頼むべきは頂天立地、ただ自己の力、自國の實力のみであります！。

嘗つて「持てる國」「持たざる國」といふ言葉が、世界の流行語となり、世界資源の再分割とか、殖民地の解放などが、頻りに論議され、我が日本は、「持たざる國」の部類に入るものとせられ、今日に於いても、徒らに持たざる國の悲哀をかこつ者を見受ける様であります！。



成程、資源的に見て、我が國は國土  
狭く恵まれるところ少く、決して富  
裕であるとは言へないかも知れませぬ、  
現状では儘に貧乏な國であります。  
即ち現在のままでは、物質日本の領  
域は一定の限度の中に限が込めら  
れてゐると言ふべきであります。  
然し乍ら、徒らに資源少きを歎  
ずる時代ではありません。萬難を  
排して、これを克服、打開すべし。

時代に當面してゐるのであります。  
かかる見地から、日滿支一体化の經  
濟体制、廣域經濟圏或は大東亜共  
榮圏等の構想が生れ、それが實現  
に向つて種々の方策が樹てられてゐ  
るのであります。それも勿論、必  
要ではあるが、これと共に私は聲を  
大にして、物質日本に對して、精神  
日本の領域を擴充する事が、急  
務であると申したいのであります。



す。

我が國に不足する資源は、これを  
を滿洲也、支那也、南洋方面から  
得て補へばよい、とハふことも一案を  
はあるが、然しこれは矢張り他力  
依存たるを免れなへ。斯様なケチ  
臭い考へだければ、到底この難局が  
乗り切れるものではありませぬ。不  
足物資を他から仰いで、それを滿  
足しやうとするが如き非建設な考

へては、將來に於ける日本の飛躍、大成  
は到底望めなへ。

現に滿洲國成立以來十年、日滿不可分の  
緊密な關係にあり乍ら、經濟的に  
は依然として日本から注ぎ込  
む方が多  
い状態である。差引勘定すれば  
日本は年々多額の資材を滿洲に  
持ち出して居り、結局日本の立場  
はマイナスなものであります。このマ  
イナスをプラスにする為には、今



後尙相當の歲月と注ぎ込  
開きを要  
します。然り、滿洲に於てす  
この通りである。況んや支那也南  
洋なとは、極めて有望なる  
将来性  
を持つて居ります。尙分は  
大なる引當には放り兼ねる。  
殊に  
支那に於ては、戦ひと同時に大なる  
建設が行はれて居り、日本の資財を  
相當に必要とし注ぎ込  
人である  
のではありません！。

茲に於いて、吾々は不足する物資が  
あれば、自らの工夫と努力によつて、そ  
水の増産を圖るべきである。あらゆる  
角度から微細に検討した結果、増産  
が絶対に不可能であるならば、新し  
いものを發見、創造することを中心と  
して、力を注ぐべきである。私の  
言ふ精神日本の領域とは、斯る方  
面を指すのであります。科学智識  
の普及とか、科学と技術の總動員



といふ聲を、近頃屢々耳にする  
か、これが完結局の目標も、私のいふ  
精神日本の領域擴充にあると考  
へます。

科学に立脚した精神日本の領域  
には制限もなければ、緩張りもあ  
りませぬ。近頃、産めよ、殖せよ、  
と言って、結婚奨励、子寶表彰、  
等が行はれ、人口の増加に依り、國力  
を強める方策が樹てられてゐる。

これも勿論結構ではあるが、然し相  
當の年月を必要とします。故に、こ  
の人口増加の方策と相俟つて、他方に  
於いては、國民の素質を向上せしめる  
ことが肝要であります。その方法と  
しては教育の改善、科学の奨励、優  
生學的處置の普及徹底或は民族  
衛生上の施設等が講せられるべき  
であります。

國民の資質向上に依つて國力を



強めると言っても、決して簡單、容易であるとは申しませぬが、然し力の入れば、やはり様によつては、人口増加よりも比較的早途に出来る節合のものもあると考へます。この國民素質の改善、科学の向上に依り、輪廓の大きい、線の太い、分の厚い、壯のしつかり出来た、却かも腕の派えた國民が出来上る。眞にたのもしい日本人が出来上る。

かくして精神日本の領域が擴大し、充實し、強化して来れば、無さを有とする譯にはゆかないにしても、現にこの世の中に存在する森林羅萬象、萬物を吾々の創意と工夫、努力と精進とによつて、人間の利用厚生上、今日よりも、より以上に有効適切に使用し得べきを以つて、惹いては物質日本の領域の缺少なるのを償ひ得ると信ずる。否、それによつて物質日本の領域も擴充せられ、



即ち物心両面に於ける日本の真價  
か高められるのであります！。

地下資源に就いて見ても、ただ地  
上に現はれた路頭だけで結末を口  
けてはなりません。貧鑛だと言っ  
て無暗に棄て去る心もはなない。  
總ての努力精進と創意工夫をめぐ  
らして、これを開發し、利用するこ  
とに着目すべきであります！。

私は朝鮮總督在任の當時、各種

の産業政策を實施しました。特に  
朝鮮の産金奨励に力を致し、種々の  
施設を樹てこれを實行に移したの  
であります。爾來、今日に及んで、朝  
鮮の産業上の地位は驚異的に昂ま  
り、高度國防國家建設の兵站基地  
として重要ななる部署を占めるに至  
つて居ります。先づ朝鮮の産金額  
に就いて見るならば、昭和六年までは  
年産七八トン即ち十トン足らずで



あつたものが、十年には二十トン、十四年には三十一トンを産出して居ります。人々の工夫と努力が、海員を結んで、その産額を八年間に四倍となして居る。更に従来日本には無いと謂はれてゐた鯨物が、續々と發見され、産業界に寄與して居ります。

又我が國の捕鯨業、鯨とりにし、ましても、近年まで優劣な捕獲術を持ち乍ら、その水の加工は殆んど

ど外國に依存し、鯨油、鯨の油の如きは、外國の老獪、巧妙なる市場操作、カラクリに操られ、極めて安く叩かれ、これを賣り渡すといふ有様であつた。且つ骨也、皮也、肉也、臍物などは殆んど利用せられずに打ち捨てられて来たのである。然し近年我國當業者の研究と努力によつて、鯨油は油脂として使用せられると共に、高級なる



一四  
蠶にも精製衣せられ、皮は水産皮  
革の第一位を占めて居り、~~珍~~物  
は菓品とし、母は食用、並に加工  
品に、——といふ状態を、鯨の  
全身何一つとして棄てるといふと  
ころなく利用し盡され、従来に  
比して數倍の収益をあげる様  
に成つて居る。

海の國たる日本の周圍には、廣  
大無辺の海洋がある。この海洋

から種々の新しい物資を割り出す  
ことも、廣大無辺なる將來性がある  
と思ひます。海水から特殊な金属を  
抽出することも、夢下なく既に工業  
化されつつあります。又海面だけな  
なく、海底にも眼を放つてある  
る。斯様に、山多く、海をめぐら  
す我國の資源は、吾々の不撓の努  
力と不断の創意工夫に依つて、い  
らでも開發する餘地が残され



なると言へるのであります。持たざる國のレッテルを吾々の力によつて返上せねばなりません。

その他私は最近仙台に於てチタニウム、採鑛工場を見ましたか、これなども従来日本では産出したことされてゐた金属でありますか、多年の研究と努力が結果として、砂鐵から水が抽出に成功してゐるのである。宮崎縣の延岡には

ヘンセルグ織布工場を視察しましたか、それも従来捨てられてゐた棉の密員の絞りに、特殊な操作を施して細密な繊維となすことに成功し、天然絹糸に劣らぬ製品を出して居ります。又石炭の如きは眞白な纖維原料にもなるし、二百餘種の物資に変化してゐるのであります。斯の如き事實を前にして、私は物質日本の前途に多大の光明を認めたい。



である。

これらは単に一二の例に過ぎないが、今、我國一ヶ年の生産額は三百億円と見做し、吾々の工夫と努力に依つて、假りにその一割を増産し得るとすれば三十億といふことになる。三百億のうち百八十億が税金、公債生産補充に、残り百二十億が一般國民の消費額となつて居るが、消費の規正、節約に依つてその一

割縮減すれば十二億となり、増産一割、節約一割の總計四十二億といふ膨大な數字が生れて来るのであります。

私は夢を説く者ではありませぬ。徒らに投資熱を煽り、所謂鑛山師の横行を歓迎するものにはありませぬ。ただ物質日本の狭隘を徒らに嘆ずることを止めよと言ふのである。精神日本の



領域を無限に横ろげ、充實し、  
強化することは、即ち国民素質の  
改善、科学の向上就中、青年の陶  
冶訓練と科学の振興とその應用  
によつて求め得られるといふ事を  
確く信じて居ります。高度國防  
國家の建設も、東亞共榮圈の完成  
も、その基礎をここに置かば、ここ  
から出發すべきであると考えます。  
これは重要資源のみの事では

なく、日常生活の衣食住の各方面に  
亘つて、すべて、よりよく適切に創意  
工夫され、以つて国民生活の健全、確  
平たる時代が招来されなければなら  
ないのではありません。科学を机上の  
ものとすることなく、これを毎旦生活  
に融け込まして新しい生活様式が  
たてられなければならぬのである。  
而かもこれを急ぐ主力は青年を  
指して他にはない。青年こそは紙



眞にして、旺盛なる研究家である  
り、新しい時代をいくる人的資源  
である。青年諸君はこの認識を  
正しく把握すべしあります！。

私は常に「正義の前に勇力敢に、  
智慧を絞り、汗を絞り、さうして  
頑張り通せよ」といふ事を繰り  
返して青年諸君に要望してら  
るが、これを言ひ換へると「琢磨  
ぬ省せよ、創意工夫せよ、努力力

奮励せよ、堅忍持久せよ」といふ  
ことになりませう！。

諸君は、現在勤められ居る職  
場に於いて、智慧を絞り、汗を  
絞り、正義の前に勇力敢に、さし  
て頑張り通して下さい。それか諸  
君の個人としての責務であり、社  
會人としての任務でもあります！。  
それとお互に精神日本領域擴  
充に努め、錯綜せる、國際狀勢



に肝をつぶすことなく、堂々とこの時局を乗り切らなげればなりました。この事を、しつかりとお頼みして、私の講演を  
終ります！。



辛巳講演 第四集

昭和十六年六月十日  
於 兵庫道場

參部 八 第貳號



日本青年協會兵庫道場創設後初  
度の講習會を開くに方り諸君を  
迎へて茲に其壯容に接することとせ  
得たるは余の本懐とする所である。  
諸君の道場入り後既に旬日、諸  
般の行事も追々軌道に上りつつ  
ある趣を道場長より承はりて安  
心致して居る所であります。然る  
に何分にも當地方に於ける初度の



試みであり、不慣の仕事一でありま  
すからの直ちに以て諸君に十分なる  
満足を得ざるの節も存する  
かと思ひますが、其處は諸君の  
自奮、自戒、自習に依りて其足  
らざる所を補へて十二分の効果  
を收めて被派遣者として派遣者  
側に有形無形の好きお土産をお  
持ち歸りになることを切望し  
て止みませぬ。

却説折角御目に掛りし好機會で  
ありますのに、單に初對面の挨拶す  
る丈けで御別れするのも實は本意  
なく存じますから、聊か余が國民  
殊に青年に對して如何なることを要  
求し、期待して居るかの一端を紹介  
して諸君今後の參考に供したいた  
存じます。

世界永遠の平和と人類福祉の増  
進を圖ることとは八紘一宇の完成を高



き目標となし、つつある日本國民の貴き  
重き使命である、換言すれば萬邦、  
萬人、萬物をして各々其所を得せ  
しめて、此の世界、此の世中を、し  
「あるべき」姿に在らしめんとすること  
に勉むるのは現在より未來に涉り  
て御互が爲さねばならぬ大切な任  
事であり使命であります！  
其仕事を成し遂げ、其使命を  
果すべき順序としては日本が中心と

なり、先驅者となり、指導者とし  
て結束して數百年来白人の重ね來  
りし壓迫や採取を奇麗に清算  
し廢棄せしめて東亞民族を白人  
と平等、對等の地位に建め、漸次  
夫れを擴大して全亞細亞に及ぼし、  
更に夫れを押し弘めて全世界の  
有色人種全部にまで及ぼすべきで  
ある、斯くして全世界の人種は平  
等となり對等となり、夫れに



伴ひ資源と市場は自由三に解  
放せらるるに至れば國際間の  
争の種子や喧嘩の原因は自然  
になくなり、消滅して、茲に始め  
て世界永遠の平和も見立てば、  
人類福祉の増進も期待し得らる  
ると信ずる、所謂八紘一宇の宏  
護翼賛も現實實現に成立するの  
であります！

然るに日本が東亞民族延びては

全亞細亞民族——全世界の有色人  
種、將又更に進んで八紘一宇即  
ち全世界、全人類の中心となり—  
先驅者となり、指導的立場を  
採りて萬邦一家、四海兄弟の理  
相心郷を實現するには日本國と  
しては支那に必要とする實現力  
を持ち、日本人としては支那に不  
さわしき、資格の持主であらね  
ばならぬ——、此實現力、此資格の



持合せなくしての八紘一宇の提唱は  
一種の空想であり、夢物語たる  
るに過ぎぬ。

却説茲に冷静に自國、自己を  
顧みまして、果して日本國に其實  
力が備はり日本人に其資格が整  
ふて居りませうか？ 同い人間が  
据り直し、着物を換へた丈りで  
大聲疾呼して西霸者いや盟主い  
やと空威張りして見た處で矢張り

依然として舊阿蒙であります、  
夫れは自画自賛であり、自分免許  
であり、獨善であり、已惚れたる  
に過ぎませぬ、こんな事では決し  
て他民族の尊敬も信頼も博する  
ことは出来ませぬ、威力で壓服し、  
引摺することには爲し得ても決して心  
服し何時までも追隨し來るもので  
はない、其壓服でさへ實力の續く  
限りが巔の山下で夫れが緩めば直ち



に反撥し反抗し来るもので誠に果敢なきものであります！

今や征戦四年赫々たる武威は輝いて居りますし水ども現に支那の民心は歲月を重ねるに従ひて益々日本に背反して居る様である、のみならず滿洲や其他の新附の民心も日本信頼の點に動搖を來しつつありとの噂さへも耳に致しますのは毎日に慘目な感に打たれ

心外千萬であります！

併し斯くの如き事態に對しては御互は大に反省せねばなりません、畢竟ずるに及れば日本人が人格的に支那人や滿鮮人を敬服せしめ、信頼せしむべき資格に缺くる所があるからである、日本國が實力的に所謂經濟的、技術的に歐米依存、模倣の域を超越し得ざる點も尚多々存するので彼等には日本が餘



り難有く見へしなげれば又日本が大に頼りになるとの考も起らぬ様であります。従つて日本國民としては今後東亞興隆の先驅者となり、有色人種の指導的立場を受け持ち八紘一宇の聖業遂行の中心たる爲には更に教養と精神文化、物質文化の両方面に於ける進歩向上を圖ることが極めて緊要であります。この先決條件であると思はれます。この

改進と向上を伴はざる八紘一宇の聖業は私をして言はしむるならは所謂畫龍點睛を缺くものと評するを憚りません。否寧ろ其所謂聖業なるものが畫餅に歸しはせぬかと深憂を抱き居るものであります。

其處で私は今より約三十年前即ち第一次歐洲大戰當時より痛切に國民の教養と科学の振興に大



に格段に力を盡して歐米依存や模倣を脱却せねば入統一宗なる、日本國、日本國民の傳統的の尊き重き使命を果すことは六ヶ敷と感ぜまして、**再**來此點に微力を盡しつゝ來たのであります。

私の盡したる微力の一端は國民の教養良方面では、學校教練や青年訓練（今の青年學校の前身）及び此の日本青年協會の創設等に於て

會員現し又科學の振興方面では陸軍の機械化、化學化を圖ると同時に技術関係者の優遇、學術の調査研究に大に力をを用ゆることに致したのであります。が、軍事方面のことは二十年前に私が着手致しました筋道が同様の意氣込みを以て其後引續き遂行せられて居りましたならば、彼のノモンハン事件の如き場面も起らねば、**蔣**介石とても風に



支那國内から驅逐せられて日支事変  
はトウノ昔に片付き居るのではな  
いかと汝々思はれまして私共には實  
に感懐無量遺憾至極に考へ居る  
所であります！

而して國民の教養方面に就きま  
しては既に世の中の或種の色に染り居  
る壯年―老年者達から其の色を抜  
き去りて他の新しき色付けするの  
は相當骨も折れて至難の事業であり

ますから、夫れよりも比較的純真無  
垢の青年、其青年は現在では、ま  
だ明日の人でありますけれども、直  
ぐに今日の人となり得る宿命を持  
ち居るのであるが、壯年―老年者達  
は現に今日の人であるけれども直ぐ昨  
日の人となる連中でありますので寧  
ろ同く骨折りするならば明日の人た  
る青年の教養に全力を盡すべきで  
あると考へまして學校教練や青年訓



九  
練や青年協會を創始したのであり  
ますが、其當時の社會狀勢は自由、  
享樂、浮華、驕奢、拜金、利己、物  
質萬能の空氣が彌蔓して居た折  
柄でありますから幾多の苦闘を  
續け悪戦を重ねて難関を突破し  
て該教練や訓練は昨年来再度に  
涉り御親閲を蒙るの光榮まで  
も浴するに至りましたることは創  
設當時より苦闘を重ねましたる

私共同人には會員に感慨無量であ  
ります！。

却説然らば私としては如何なる  
青年、高進人では如何なる國民を  
作り上げることが必要として居  
るかと申せば一口に云へば腹の確か  
と据つて落付のある、胸に余裕コトヨリを  
持ちてフセクセない、腕に頼むべき  
總見のある、頭のサエたる鋭い國民  
を造り上げたのであります、何處



へ行ても通用し難い日本式を獨善  
的に振り廻して、土着の良衆から  
鼻つまみされ爪弾きされる様な  
人間では決して大を爲し多く集む  
る譯には参りませぬ常に泰然自  
若として日本魂を堅持しつつも他  
邦の國民性に融け込んで之を同化  
し之を包容して行くことが偉大  
なる日本を完成する所以であり  
八紘一宇の宏謨を實現す道であ

ると思ひます！。

私共協會同人が多年青年の教  
養に就て努力して参りましたのも  
以上御諾し申上げたる意味合から  
であります！、尚近年青年教育  
としては獨逸のヒットラー、エーゲントが  
著名となり、日本などは其真似  
を以て居る様に考へて居る向も  
ありませんが、實は年代としては日  
本の方が先鞭を着けて居たので



あり、先覺者でありたのであります、併し當事者の熱心と力の注ぎ方が獨逸の如く壓倒的に成らざりし爲に結果は彼の方が現に數歩を進めて居りますけれども今後には於ける御互の努力如何によりては之を凌駕するのも敢て至難でないと思はれ居ります、此辺竹馬と諸君の胸に收められて講習間は素より今後とも絶へず

職場之を道場なりとの心掛けの下に益々修養、研鑽を積まれ、自他を大成せしめられんことを切望して止みませぬ。

當道場としては初度の講習であり、又斯の如き方法での講習は協會としても初めての試みでありますから、這間に將來日本商工青年の教養の爲に歴止平としたる印象を留めたいものと



存じて居ります。諸君も其  
積りで火に遣りて貰ふたい。其々  
も頼みて置きます。

尚時局に關して御参考まで  
に少しお諮致しますが多少機微  
に觸れたる點にまでも言及するか  
も知れませぬから此場限りの秘誌  
として諸君の胸に丈り收められ  
今後の御奮闘の資に供せらる  
ることとに致し度い。

秘誌云々は別冊に――

- 一、歐洲大戰の鍵「英独何れが勝かり」
- 二、日支事變の始末
- 三、日米戰爭の有無「米國の参戰」



辛巳講演集

昭和十六年十月三十日  
於放送協會

參部ノ双笑貳號



廣島大本營の思出（記念講演）

私は日清戦争以前より陸軍に御奉公致して居りましたる一老兵の宇垣であります。今度廣島大本營に關する記念の御催しかあり、私に何か誌を致せとのことでありましたが、私は其當時近衛の少尉として大本營衛兵の一員であり、大本營勤務のお歴々の最末席を汚かして居りましたる極微力なものでありますので樞要なる機務などには全然關係を持ちませず、従つて茲に價値あ



る御詔を申す。資格はないと存じ、まして  
其御詔は縁故ある他の先輩に御願  
したへと考へましたけれども私の記憶に  
浮ぶ方々は全部が最早故人になられ  
て居りますので、止を得ず、私が詔を  
お引受け致しましたる次第でありませ  
す。

御承知の如く明治二十七年七月末、朝  
鮮仁川港沖合の豊島附近の海戦を契  
機として日清兩國間の平和は名實共

に破れ、續て京城の南方灰山、成歡附近に  
於て日支兩國陸兵が豊臣大塔の朝鮮征伐  
以来久方振りに干戈を執りて相見へたの  
であります。其處で敗北た生さ残り  
支那兵は遠く京城東方の山間を経て北  
方に落ち延び八月末頃には其敗兵は平  
壤附近に集りました。又之れが増援の  
支那の新平の大軍も南下して續々と平  
壤附近に到着したのであります。  
我より優勢力なる此の支那軍に對して



大膽なる包圍殲滅攻撃を行ふべく  
廣島師團は京城より義州街道方面を北  
進し、其一部は大同江下流の鎮南浦附  
近に上陸して南西の方より平壤に迫り、  
又名古屋師團の混成旅團は朝鮮の東海岸元  
山に上陸して背梁大山脈の難路を突破し東  
方及北方より平壤に近づき、九月十日頃  
には分進合撃<sup>(會同)</sup>の準備も大に揃りて居り  
ました。又他方、海の方では威海衛を根  
據とする有力なる支那の北洋艦隊に

極端と

對して彼れより遙に微力なりし我海軍  
も果敢なる進撃の体勢を整へ、此方面  
でも戦機は大に熟して来たのでありま  
す。

此の如き乾坤一擲とも申すべし、際どい作  
戦を、親しく、近く指揮し、將又三軍  
を鼓舞督勵遊ばさるべく九月中旬に  
大本營を廣島に進めらるることにな  
りました。鐵道交通の尙幼稚にして  
急行列車等のなかりし當時のこと



ありますから東京—廣島間の旅行に  
丸三日の時日を要したのであります。即  
ち御旅程の第一日は朝早く東京御發、  
夕名古屋御着、本願寺別院に御泊、第  
二日は早朝名古屋御發、夕方神戸御着で  
海岸の極めて粗末な船問屋、專崎  
の別荘に御泊、第三日九月十六日は早朝神  
戸御發、途中岡山の西方で皇軍が平  
壤附近で大捷を得たる快報が御召  
列車に到達したのであります。

下度其頃陸海に於ける戦機の切迫と共に  
に勝敗如何哉と一般に強く氣遣はれて、  
云はず語らずの裡に供奉の方々の胸中は  
素より、奉送迎の沿道士民、否 全國  
民の胸の裏にも同じ憂は抱かれて心臓  
の鼓動を高めて居た所である、然るに  
此の大勝の吉報を得ましたる後は車中の  
ハシヤガ方は申す迄もなく、沿道に  
奉送迎する國民の歡呼興奮も一般  
と高まり、實に意氣天に沖するの



慨があり、凶躍るの感が起りたので  
あります。夕景、廣島御着、これ迄  
第五師團司令部でありし大本營に入  
御になりました。尊王稜威の然ら  
しむる所、羽立十七日には更に黃海の  
大海戦に於て支那の北洋艦隊に殆ん  
ど殲滅的の大打撃を與へたる快報  
が到達致しました。

今日廣島城内に保存せられてある記  
念館は、元は第五師團司令部と同

師團經理部の建物で、誠に素朴な手狭  
なものであります。司令部の方は  
大元帥陛下の行在所と側近者の住居に充  
てられ、經理部の方は最初は大本營の事  
務所として使つて居りましたが其後  
皇后陛下が戦傷痍將士の御慰問に  
行啓あらせられたので、事務所は城外  
の砲兵隊に移り、其跡が國母陛下の御  
座所に充てられましたのである。

行在所の總ての調度品は誠に質素



な、在り合せの物であり、現に記念心  
館に其儘保存せられて在る物を拜  
観致し、ましても實に敬虔と申ししま  
せうか、特恐懼と申しして宜しいか、一  
種の言ふに言はれぬ深い感に打たれど  
るを得ないのであります！

私は教言衛勤務の關係からして毎日晝  
夜數回は城の外を見廻り致しました  
が大抵毎夜十二時頃まで御座所の窓  
より燈火の漏るるのを拜し、まして

日もすから、夜もすから作戦を練り、  
戦場よりの報告を御待ち遊ばされ、  
又征野に在る兵士共の身の上を御案  
し遊ばさるることと拜察し、常に感  
激に充ちつつ奉仕申上げて居りました、  
殊に大本營の直ぐ北側に在る歩兵營  
に出火のありました際などは、火の粉  
は大本營を蔽ひありしに陛下は窓  
側に立ちて火事の様子を見そなわ  
しつつ側近者と何か御話し遊ばさ



るるのを、私は落ち来る火の粉の消止め方を指揮し、つづき、しまして痛く恐懼致しました。之れも私の頭に刻み込まれたる深へ一つの印象であります！。

其他陪従の幕僚、奉仕者等何れも市井のむさくろし、一宿屋に談話居しなから晝夜を別たず、文字通り粉骨碎身御奉公を爲されある有様を直々、面のあたり見たる、若か

りし當時の私としては此間に私の今日あるを致したる幾多の貴き教訓を得ましたのであります！。

其歳の十月には、城丸練兵場に於けるバラック建ての假議事堂で臨時議會が開かれ、議員連は宿舍かないので市丸のお寺等に假泊しなから非常な緊張を以て奉仕致して居りました。

其後我軍は鴨綠江に、海城に勝ち、



旅順や威海衛を陥れ、田庄台の大捷等所謂連戦連勝で、敵國首府防衛の関門である渤海湾口は開かれ、皇軍は大襲撃、特に北京に迫らんとする態勢に在りたので、流石に傲慢なりし清國側も関口して翌二十八年の三月中旬には講和の使節が馬関に來り折衝を重ねて和議が成立したのもある、其處で大本營は京都に移り山陵等の参

拜もあらせられた後、國民の熱火の如き歓迎裡に五月東京に凱旋遊ばせられた、實に戦卒の勝ち負けや、一國の盛衰は決して徒爾なる出来事ではない、必ずや然るべき原因があり、夫れに適應する結果に伴ふものであることは、日清戦史の廣島大本營の此の一節丈に鑑みましても十分に之を證據立てて余りありと存じます。



今度の御催しを紀念する意味を  
以て古き記憶を辿りて聊か所懐  
を述べた次第であります！。

(了)







